



TITLE:

弱順序極小構造とdefinably connectedについて (モデル理論の手法による無限構造の構成法)

AUTHOR(S):

田中, 広志

CITATION:

田中, 広志. 弱順序極小構造とdefinably connectedについて (モデル理論の手法による無限構造の構成法). 数理解析研究所講究録 2008, 1602: 6-9

ISSUE DATE:

2008-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/139893>

RIGHT:

弱順序極小構造と definably connected について

阿南工業高等専門学校・一般教科 田中 広志 (Hiroshi Tanaka)
Liberal Arts Division, Anan National College of Technology
htanaka@anan-nct.ac.jp

概要

$\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を順序極小構造とし, $X \subseteq M^n$ をセルとする。このとき, セル X は definably connected になることを Knight-Pillay-Steinhorn が示した。本稿では, 上記のことの弱順序極小構造版について考える。

$\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を端点を持たない全順序構造とする。 M の部分集合 A が, 任意の $a, b \in A$ と $c \in M$ に対して, $a < c < b$ ならば $c \in A$ をみたすとき, A は M の凸集合であるという。さらに $\sup A, \inf A \in M \cup \{-\infty, +\infty\}$ のとき, A は M の区間であるという。構造 \mathcal{M} の任意の definable 集合 $D \subseteq M$ が, 区間 (または凸集合) の有限和で表せるとき, \mathcal{M} は順序極小構造 (または弱順序極小構造) であるとよぶ。理論 $\text{Th}(\mathcal{M})$ の任意のモデルが順序極小 (または弱順序極小) になるとき, $\text{Th}(\mathcal{M})$ は順序極小理論 (または弱順序極小理論) とよぶ。順序極小構造に関する参考文献として [1], [3], 弱順序極小構造に関する参考文献として [2], [5], [7] がある。

以後考える構造 \mathcal{M} はすべて弱順序極小構造とする。

$C, D \subseteq M$ とする。任意の $c \in C, d \in D$ に対して $c < d$ のとき, $C < D$ と書く。空でない集合の対 $\langle C, D \rangle$ が, $C < D$ かつ $C \cup D = M$ でさらに D が最小元を持たないとき, M の切断であるという。 \mathcal{M} の definable 切断全体を \overline{M} によって表す。任意の $a \in M$ に対して, definable 切断 $\langle (-\infty, a], (a, +\infty) \rangle$ を考えることにより, $M \subseteq \overline{M}$ とみなす。さらに $\langle C_1, D_1 \rangle < \langle C_2, D_2 \rangle$ を $C_1 \subsetneq C_2$ と定義することにより, $(M, <)$ を $(\overline{M}, <)$ の部分構造とみなす。

M (または \overline{M}) 上に, M (または \overline{M}) の开区間を基本開集合として位相を入れる。

n を自然数とし, $A \subseteq M^n$ を definable とする。写像 $f : A \rightarrow \overline{M}$ において, 集合

$\{\langle x, y \rangle \in A \times M : y < f(x)\}$ が definable になるとき, f は **definable** であるという。写像 $f: A \rightarrow \overline{M} \cup \{-\infty, \infty\}$ が **definable** とは, f が A から M への definable 写像であるか, 任意の $x \in A$ に対し $f(x) = \infty$ であるか, または任意の $x \in A$ に対し $f(x) = -\infty$ になるときをいう。

[7] に弱順序極小構造上でのセルの定義がある。

定義 1. 弱順序極小構造 $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ に対して, セルとその完備化を帰納的に定義する:

1. M の 1 点集合は $\langle 0 \rangle$ -セルとする。 $C \subseteq M$ が $\langle 0 \rangle$ -セルのとき, その完備化を $\overline{C} := C$ と定める。
2. M の空でない definable 開集合は $\langle 1 \rangle$ -セルとする。 $C \subseteq M$ が $\langle 1 \rangle$ -セルのとき, その完備化を $\overline{C} := \{x \in \overline{M} : \exists a, b \in C, a < x < b\}$ と定める。
3. $C \subseteq M^m$ が $\langle i_1, \dots, i_m \rangle$ -セルで $f: C \rightarrow M$ が definable で連続, さらに連続な拡張 $\bar{f}: \overline{C} \rightarrow \overline{M}$ をもつとき, グラフ $\Gamma(f)$ は $\langle i_1, \dots, i_m, 0 \rangle$ -セルとし, その完備化を $\overline{\Gamma(f)} := \Gamma(\bar{f})$ と定める。
4. $C \subseteq M^m$ が $\langle i_1, \dots, i_m \rangle$ -セルで $g, h: C \rightarrow \overline{M} \cup \{-\infty, \infty\}$ が definable で連続, さらに連続な拡張 $\bar{g}, \bar{h}: \overline{C} \rightarrow \overline{M}$ をもち, 任意の $x \in \overline{C}$ に対して $\bar{g}(x) < \bar{h}(x)$ のとき,

$$(g, h)_C := \{\langle a, b \rangle \in C \times M : g(a) < b < h(a)\}$$

は $\langle i_1, \dots, i_m, 1 \rangle$ -セルとし, その完備化を

$$\overline{(g, h)_C} := \{\langle a, b \rangle \in \overline{C} \times \overline{M} : \bar{g}(a) < b < \bar{h}(a)\}$$

と定める。

5. ある $i_1, \dots, i_m \in \{0, 1\}$ が存在して, $C \subseteq M^m$ が $\langle i_1, \dots, i_m \rangle$ -セルとなるときの, C はセルとよぶ。

$U \subseteq M^n$ を definable 開集合とする。このとき, U の完備化を $\{a \in (\overline{M})^n : \text{ある open box } V \subseteq M^n \text{ があり, } a \in \overline{V}\}$ と定義する。特に U がセルのとき, 上記の完備化はセルの完備化 \overline{U} に一致する。よって U がセルでないときも, $\overline{U} := \{a \in (\overline{M})^n : \text{ある open box } V \subseteq M^n \text{ があり, } a \in \overline{V}\}$ とかく。

次に, boundary point ([4, 定義 1.1]) および weakly boundary point を定義する。

定義 2. $X \subseteq M^n$ をセルとする。 $Y \subseteq M^n$ を definable 集合とし, $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ とする。

1. $a \in M^n$ が X での Y の **boundary point** であるとは, $a \in X$ かつ任意の open box $U \subseteq M^n$ に対して, $a \in U$ ならば $U \cap Y \neq \emptyset$ かつ $U \cap (X \setminus Y) \neq \emptyset$ となることをいう。
2. $a \in (\overline{M})^n$ が X での Y の **weakly boundary point** であるとは, $a \in \overline{X}$ かつ任意の open box $U \subseteq M^n$ に対して, $a \in \overline{U}$ ならば $U \cap Y \neq \emptyset$ かつ $U \cap (X \setminus Y) \neq \emptyset$ となることをいう。

次に, definably connected ([4, 定義 2.2]) および weakly definably connected を定義する。

定義 3. $X \subseteq M^n$ をセルとする。

1. X が **definably connected** とは, $(U \cap X) \sqcup (V \cap X) = X$ かつ $U \cap X \neq \emptyset \neq V \cap X$ を満たす definable 開集合 $U, V \subseteq M^n$ が存在しないことをいう。
2. X が **weakly definably connected** とは, $(\overline{U} \cap \overline{X}) \sqcup (\overline{V} \cap \overline{X}) = \overline{X}$ かつ $U \cap X \neq \emptyset \neq V \cap X$ を満たす definable 開集合 $U, V \subseteq M^n$ が存在しないことをいう。

このノートでの主定理は次のものである。

定理 4. \mathcal{M} を弱順序極小構造とし, $X \subseteq M^n$ をセルとする。 $Y \subseteq M^n$ を definable 集合とし, $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ とする。このとき次が成り立つ。

1. \overline{X} は, X での Y の weakly boundary point を少なくともひとつはもつ。
2. X は weakly definably connected である。

上記の定理は, 次の順序極小構造上での定理の一般化になっている。

定理 5 ([4, 命題 2.4]). \mathcal{M} を順序極小構造とし, $X \subseteq M^n$ をセルとする。 $Y \subseteq M^n$ を definable 集合とし, $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ とする。このとき次が成り立つ。

1. X は, X での Y の boundary point を少なくともひとつはもつ。
2. X は definably connected である。

参考文献

- [1] M. Coste, An introduction to o-minimal geometry, Dottorato di Ricerca in Matematica, Dip. Mat. Univ. Pisa, Istituti Editoriali e Poligrafici Internazionali (2000).
- [2] M. A. Dickmann, Elimination of quantifiers for ordered valuation rings, *J. Symbolic Logic* 52 (1987) 116–128.
- [3] L. van den Dries, Tame topology and o-minimal structures, Lecture notes series 248, London Math. Soc. Cambridge Univ. Press (1998).
- [4] J. F. Knight, A. Pillay and C. Steinhorn, Definable sets in ordered structures. II, *Trans. Amer. Math. Soc.* 295 (1986) 593–605.
- [5] D. Macpherson, D. Marker and C. Steinhorn, Weakly o-minimal structures and real closed fields, *Trans. Amer. Math. Soc.* 352 (2000) 5435–5483.
- [6] A. Marcja and C. Toffalori, A guide to classical and modern model theory, *Trends in Logic* 19, Kluwer Academic Publishers (2003).
- [7] R. Wencel, Weakly o-minimal non-valuational structures, available at <http://www.math.uni.wroc.pl/~rwenc>.